

分 野 : II COPDに関する調査研究
① COPD患者の自己管理と重症化予防

II-①

委 託 業 務 名 : COPD身体活動性の長期維持に向けた具体的方策の探求

調査研究代表者氏名: 南 方 良 章

1 評価項目

5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)

	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(2) 研究成果目標の達成度	0人	3人	3人	0人	0人	3.50
(3) 研究計画の妥当性	1人	2人	3人	0人	0人	3.67
個別評価(第3評価):(2)(3)の平均						3.58
(6) 総合評価(第2評価)	1人	2人	3人	0人	0人	3.67
全体評価(第1評価):(2)(3)(6)の平均						3.61

2 記述評価

・臨床応用、多施設での使用開始が急がれる。そのためにも安全、簡便に使えるマニュアルを早急に作り開始することが望まれる。

・“何らかの関与が示唆”は意味がわからない。

・アイリシン・AGEの研究は本研究では無理があるのではないかな。

・本研究のようにアプリを使用する高齢者の研究では、「年齢による身体機能の変化」に注意を向けることが必要だと考えられる。アンケート調査で質問内容への回答が「かなり困難」に属する対象群の年齢層は他の回答群と比較して高齢であったかどうか教えて欲しい。今期の調査研究には「心エコー、心電図、BNP」が含まれているが、最後だけでなく前期の最終検査日に相当するvisit4でも検査するなどして少なくとも比較対象のデータを取ることが必要だと考えられる。

・研究者自身も述べているように、今後、本調査研究で得られた関連因子に対する良い介入方法を明らかにできるか、また、その介入により患者さんの身体活動性の向上につなげることができるかどうか、この研究の可否がかかっていることを踏まえ、これらの点に十分に留意して研究を進めて頂きたい。ただ、これまでの研究で関連因子とされた因子のなかに、統計学的有意差がそれほどではないものが含まれているのが気がかりである。

・第12、13期から継続する研究である。

・筋の部位、質、量に関する研究項目も重要であり、興味深い。

・健康長寿社会を目指すミッションにおいて、COPDマネジメントは喫緊の課題である。本研究の成果が、COPDへの対策に大きく貢献することを期待する。

・概ね計画通りに研究が進捗していると評価できる。

第13期からの継続研究といえるので、検討1～8の各成果の統合を目指して、より早く成果を公表していくことが期待される。